派遣先所属　　岩手県保健福祉部長寿社会課　　氏名　金子　友樹（かねこ　ゆうき）
派遣期間　　平成24年4月1日～平成26年3月31日

１　派遣業務の内容、現況

派遣先の長寿社会課では震災対応業務として、被災地の高齢者福祉施設の復旧や高齢者の健康増進に関する業務を行っています。東日本大震災津波により老人福祉施設の約4分の1の施設が全壊または一部損壊の被害を受けました。現在復旧工事の多くは完了しており、今年度中に復旧工事の対象施設の全てが再開される予定となっています。

同じ課での派遣二年目となり、昨年度は被災地の高齢者向けの運動教室や高齢者の自主的なサークル活動を支援する補助制度、高齢者が主体的に参加するイベントを担当していました。仮設住宅では、高齢者の孤立化、生活不活発病（動かないことが原因で心身の機能が低下した状態）が問題となっています。高齢者の方に運動教室やイベントに参加してもらうこと自体が非常に難しく、生活支援相談員等様々な支援を行っている方々の協力を得ながら、参加者を募りましたが、地域によっては思うように参加者が集まりませんでした。良かれと思い行った支援も、ありがた迷惑となるケースが多々あると地元の方や市町村職員から聞かされることが多くあり、ニーズに応じた支援の必要性を痛感しました。

今年度は、震災関連業務として高齢者福祉施設の災害復旧工事の補助金を担当しております。復旧工事は2施設の完成検査を残すのみとなっており、県内の高齢者福祉施設の定員は震災前とほぼ同等にまで回復していますが、入所待機者数が多く、更なる施設整備、在宅ケアの充実、地域での互助の体制づくり等が急務となっています。

被災地には工事の進捗状況確認や完成検査で行くことがありますが、被災地の生の声を聞く機会はほとんどありません。現在私の担当業務のほとんどが課の通常業務ですが、職員の被災地派遣は、被災地の自治体を支援することが目的であって、震災対応業務を直接担当することのみが目的ではないと考えています。今後も間接的な支援が主とはなりますが、岩手県の復興のため、努力していきます。

２　復旧･復興状況や被災地での見聞・感想

昨年度初めて陸前高田市に行った際は、積みあがった瓦礫、残された建物の基礎、破壊された堤防等に圧倒されました。盛岡市内では震災の影響を感じることが全くないため、内陸と沿岸の落差に驚きました。仕事で被災地に行く機会はあまり多くありませんが、沿岸に行く度に瓦礫の量は減り、新築の建物が増え、見た目の復興は着実に進んでいるように感じられます。

仮設住宅では、働ける世代の方々は仮設から出て行き、高齢者等の自力再建が困難な方々が多く残されている状況になっています。また、災害公営住宅が徐々に完成しており、災害公営住宅へ移る際に、仮設住宅で形成されたコミュニティがまたバラバラとなり、一からコミュニティを作る必要に迫られています。新たな見守り体制の構築などが課題となっています。瓦礫の処理率や建物の復旧率等、目に見える復旧・復興に目が行きがちですが、支援を必要としている方々が未だ多くいる現実を意識して、日々の業務を行うことが大切だと考えています。